

青梅市社会教育委員会議 10月定例会会議録

平成30年10月16日

201 会議室

出席者 委員 10名

(欠席者 委員 0名)

事務局 4名

1 開 会

【議 長】先日の第一ブロック研修会に参加の皆様ありがとうございました。

【課 長】9月議会が無事終わりました。現在、次期の生涯学習推進計画と、子ども読書推進計画を策定しているところである。

2 報告事項

(1) 人事異動について (報告資料1)

【事務局】事務局から報告。

(2) 平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3回役員会・第3回拡大役員会の開催について (報告資料 2)

ア 日 時 平成30年10月23日(火)午後1時30分から

イ 場 所 武蔵野スイングホール

ウ 参加者 宮野議長、随行 土屋

【事務局】事務局から概要説明。

10月2日(火)に平成33年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会の事務局での準備会を行った。事務局側の意見として、2日間で開催したい、会場は府中市、分科会はブロックごとに担当しブロック研修会を兼ねたい、基調講演の講師の選定は東京都にお願いしたい旨の意見が出た。今後理事会等で委員に諮っていききたい。

(3) 第49回関東甲信越静社会教育研究大会 長野大会について

ア 日 時 平成30年11月16日(木)～17日(金)

イ 場 所 ホクト文化ホール(長野県長野市)

ウ 参加者

宮野	金子	武下	神山	市川	栗原	小花	飛田	横手	園田
○			○	○				○	

事務局 土屋、田中

【事務局】事務局から概要説明。

(4) 平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1ブロック研修会について

ア 日時 平成30年10月14日(日) 午後1時15分～

イ 会場 瑞穂町郷土資料館 けやき館

ウ テーマ ☆統一テーマ

「知の共鳴～『学ぶこと』『つながること』その先へ～」

☆ブロック研修テーマ

「地域の特性を活かした社会教育事業」

エ 参加者 金子委員、小花委員

【委員】講演会では、テーマをもとに、現在けやき館で働いている職員のご苦勞や実践されていることのお話しを伺った。活動目標を掲げ、温故知新の会、囲炉裏瑞で語る昔話、親子折り紙教室の3つの事業を紹介くださった。温故知新の会では、火起こし体験、だるまの絵付け体験、しめ縄づくり等郷土の人材を講師として活用した事業を行っていた。けやき館の中の囲炉裏端は、瑞穂町に残っている囲炉裏端を見本に作ったとのことであった。囲炉裏瑞で語る昔話の会は、今年4年目で、参加者が次第に増え、それを維持しているところが、様々な苦勞や努力があると思うが、すばらしいと感じた。

【委員】施設見学では、狭山茶の手もみ体験の様子、けやき館、耕心館の見学を行った。けやき館のエントランスには、縮尺1,000分の1の青梅市も一部含んだ瑞穂町を中心とした航空写真地図があった。中には、町の歴史や、狭山丘陵のジオラマ、囲炉裏等があった。社会教育施設の耕心館の2階の多目的大広間では、定期的にコンサートを行っていて、すごいなと思った。庭には、希少価値のある山野草を植えてあるなど、まとまった場所に様々なものがありよかったという印象であった。

(5) 第六次青梅市生涯学習推進計画について (別途報告資料)

【事務局】事務局から概要説明。何か気づいたことがありましたら、事務局までお願いしたい。

(6) 青梅市の社会教育(平成29年度版)について (別冊資料)

【事務局】事務局から概要説明。

(7) 生涯学習事業実施予定・結果 (報告資料3)

【事務局】事務局から概要説明。

(8) その他

【事務局】10月4日、5日に行われた福島県社会教育研究集会の資料を委員の方からいただいた。内容を見せていただき、次回以降、委員の皆様

情報提供したい。

3 協議事項

- (1) 青梅市社会教育委員会議 9 月定例会会議録（案）について
(協議資料 1)

【事務局】事務局から概要説明。
～承認～

- (2) 平成 30 年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会表彰候補者の推薦
について (協議資料 2)

【事務局】事務局から概要説明。
～小花委員を推薦決定～

- (3) 平成 30 年度青梅市芸術文化奨励賞被表彰候補者の選定について
(別途協議資料)

【事務局】資料にもとづき説明。

※各候補者について協議

個人の部	適	7 名
	否	4 名
団体の部	適	1 団体
	否	1 団体

【事務局】本日協議いただいた結果は 11 月の教育委員会で協議する。決定した表彰候補者は市長に報告し、最終的に市長の決定で平成 30 年度の受賞者が決定する。表彰式は 11 月 27 日に市役所で開催する。

- (4) その他
特になし

4 その他

【事務局】その他の配布物について説明。

【委員】本日より、文部科学省では大幅な機構改革が行われ、「生涯学習政策局」から、初等中等教育局と高等教育局の一部の業務と併せて新たに「総合教育政策局」となり、「社会教育課」が廃止された。学社連携融合、学校教育も含めて一体化の中で進めていきたいという考えから行っているようである。平成 30 年 3 月に中教審でも今後の社会教育の在り方について議論しているが、これまでとは大きく違う形で社会教育が推進していくと聞いている。また、平成 32 年 4 月から社会教育主事という任用資格が社会教育士という名称で名乗ることができるようになる。今後、社会教育法も変わってくると思う。

【議長】次期の生涯学習推進計画（案）の内容を見て、自己実現をいかにしていくかが中心に書かれていると思った。それも大事だが、地域社会で頑張れ

る人を育てていただきということも思った。地域で活動していると、少子高齢化で地域の行事やお祭りをするのも難しくなるなど、沈滞してきている。自己の実現も素晴らしいことだが、それが地域につながるとよりよいことだと思う。

【委員】人づくりとまちづくりを生涯学習でという考えも必要だと思う。

【委員】自治会においても、これまでと同じことをしていると役員のなり手がいない。そこで小曾木の学校と地域を考える会では、子どもの笑い声や声を中心に地域を元気にという考えのもと立ち上げ、色々な方達が応援してくださり、根づいている。自治会、新たな若い人が一緒になって、思いを寄せ合ってやっている状況である。

【課長】近年、多様な価値観ということを社会の中で言われているが、その中で地域を選んでもらえるといいと思う。

【事務局】社会教育事業の中では、青少年リーダー育成研修を行っているが、身につけたことをどう生かすかは、個人に委ねられている。また、地域の自治会を中心として、多世代交流センターはできないかという事業も行っている。下長淵では、自治会と子育て世代で行事等が行われている事例がすでにある。このような地域のさまざまな人が交流できる方策も進めていければと思っている。

次回定例会 11月20日（火）